



シリーズ
第155話

ピロリ菌とがん

市民病院
内視鏡センター
監修

▽市民病院（代表） TEL 22・2171

ID 751376216

●ピロリ菌とは

ピロリ菌の正式名は「ヘリコバクター・ピロリ」です。ヘリコバクターの「ヘリコ」は、「らせん形」を意味する「ヘリコイド」からきた言葉です。バクターは、「細菌」を意味する「バクテリア」のことです。ピロリは、胃の出口（幽門輪）を指す「ピロルス」からきています。

ピロリ菌は、1982年に西オーストラリア大学のロビン・ウォーレン名誉教授とバリイ・マーシャル教授が胃の幽門部から初めて発見しました。マーシャルは1984年、自らこの菌を飲んで胃に炎症が起るかを調べ、ピロリ菌が胃炎を起こすことを、身をもって証明しました。そして2人は2005年にノーベル医学生理学賞を受賞しました。

●ピロリ菌が原因となる病気

ピロリ菌に感染しても、必ず潰瘍や胃癌が発症するわけではありません。しかし、感染したほとんどの人に胃炎が起り、除菌をしない限りピロリ菌は胃の中に住み続けます。そのため、慢性的な炎症が続き、胃の粘膜を防御する力が弱まるため、ストレスや発癌物質などの攻撃を受けやすい無防備な状態となります。そして、慢性胃炎や胃・十二指腸潰瘍を起します。また、ピロリ菌感染が胃がん発生リスクを高めると報告されています。

●当院でのピロリ菌検査の流れ

1. 検査（次のいずれかの方法で、ピロリ菌に感染しているかを調べます）
 - ① 抗体測定
血液でピロリ菌に対する抗体の有無を調べる方法（医療機関によっては尿で調べる場合

もありません）

- ② 便中抗原測定
便を採取しピロリ菌の抗原の有無を調べる方法
- ③ 尿素呼気試験
検査用の薬を飲み、20分経過後、吐く息を調べてピロリ菌に感染しているかを調べる方法
- ④ 胃カメラによる生検
内視鏡で胃の組織を採取し、ピロリ菌自体がいるかどうかを調べる方法

その他、当院では行っていませんが、迅速ウレアーゼ試験や細菌培養法などの検査があります。

【ピロリ菌に感染したら治療を行います。】

- 2 除菌治療（抗生剤と胃薬を1週間服用します）
- 3 除菌判定検査（除菌ができたかどうかを、主に①〜③のいずれかの検査で判定します）

4. 除菌終了（判定結果が陰性ならば除菌成功です）

除菌判定が陽性だった場合、2次除菌治療を行います。なお、2次除菌治療までは保険適応です。

当院は、2018年から人間ドックの検査項目にピロリ菌の抗体検査を追加しています。人間ドックで胃透視や胃カメラを受けた方は、検査結果のピロリ抗体の数値をご確認ください。数値が高かった（10・0u/ml以上）場合、ピロリ菌に感染している可能性があります。ただし、ピロリ菌除菌後の方はこの通りではありませんのでご注意ください。

また、除菌後もピロリ菌に感染された方は、未感染の方に比べると胃がんの発生リスクが高くなります。早期発見と治療のために、年に1度の内視鏡検査がおすすめです。